

町のわだい



今月の題字 後藤 夢結さん (船越小4年)

船越小で新巻きサケづくり体験 手ほどき受け丁寧に作業

船越小学校(多田 敢 校長、児童95人)の6年生21人が12月1日、船越湾漁協集荷場で新巻きサケづくりに挑戦しました。児童たちは同漁協職員や女性部の皆さんの手ほどきを受けながら、サケの腹を割いて、内臓や血合いを取り出し、水洗いをする下処理から塩漬けまでの作業を体験。不慣れな手つきながらも一つ一つの行程を丁寧に取り組みました。作業を終えた齊藤彩月さんは「どの作業も強い力が必要で大変でした。出来上がりが楽しみです」と、頬を緩めました。サケは1週間塩蔵した後水洗いし、2週間ほど干して、児童たちに配られます。



山田中生徒が「合唱キャラバン」 歌声で後輩児童にエール

山田中学校(佐々木 秀毅 校長、生徒317人)の3年生107人が町内3小学校を訪問し、歌声を披露する「合唱キャラバン」が、11月24日から26日にかけて行われました。将来の山田中を担う児童たちに、合唱を通じて人前に立ち堂々と自分自身を表現できるようになってほしいとの願いから、初めて企画されたもので、26日の山田小学校の会場では、全校児童の前で体育祭用の応援パフォーマンスに続き「名づけられた葉」を大合唱。先輩たちが送る熱いエールに児童たちは、大きな拍手で応えていました。

山田高生徒が探究成果を発表 若者視点に大人もうなづく

11月27日、山田高校(宮 学校長、生徒112人)1・2年生が「総合的な探究の時間」で取り組んだ学習成果の発表会を行いました。1年生は災害の教訓を記す石碑に焦点を当て「震災を風化させないこと」の大切さを学び、インターネット上の地図へ記録を残す手法の有効性を発表しました。復旧整備が進むオランダ島の利活用に着目した2年生は、島での避難訓練で見た課題を挙げたほか、島を起爆剤とする観光客誘致イベントやオランダ島祭りの復活などが提案されました。若者目線のアイデアに、聴き手の大人たちも大きくうなづいていました。

